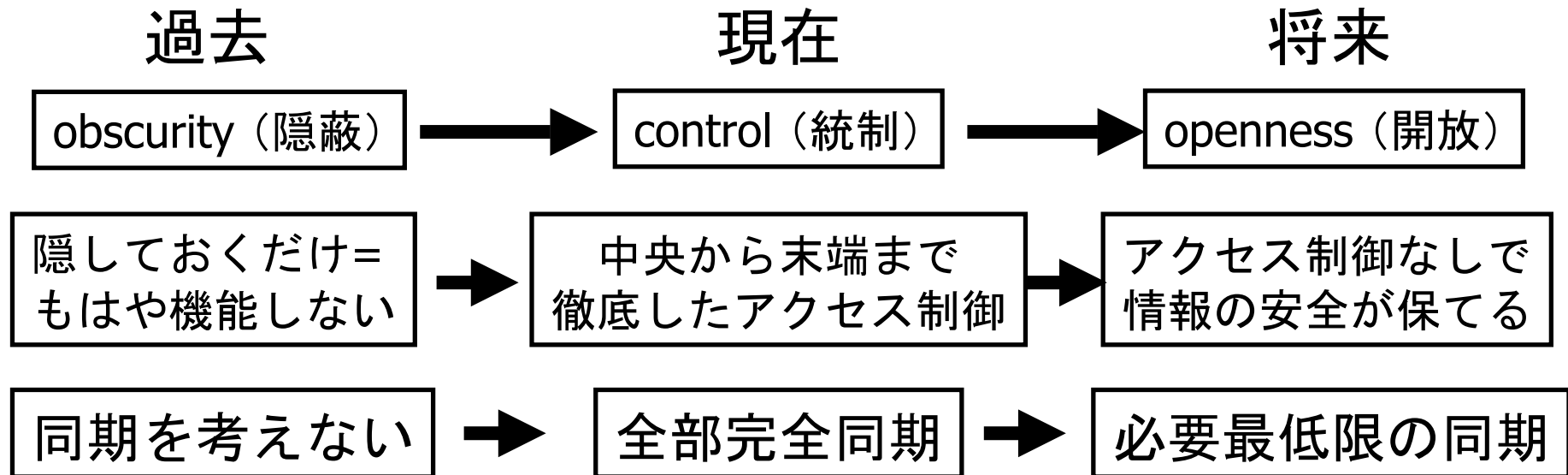


強制同期社会から非同期社会への転換

- インターネットがもたらしたのは「緩い同期」の社会
 - 電子メールやWebメディアはもともと eventually consistent
 - 「いずれ整合するだろう」で管理運営もなんとかやってこれた
- 問題: 近代産業社会は強制同期原則で動いている
 - 勤務時間, 食事の時刻, 一斉通勤, 一斉休日, 納期厳守, etc.
 - やり過ぎると強制同期状態への依存症が生まれ自分で考えなくなる
- 過度な強制同期指向で皆精神も肉体も疲れている
 - ケータイの「即時返事ルール」も, 通勤地獄も, 根本の原因は同じ
- 対策: 非同期ですむものは非同期のままにしておく
 - エネルギー消費を抑えて大規模システムを実現する唯一の方法
 - 残る課題: 人々のセキュリティ(安心感)をどう醸成していくか?

セキュリティ(安全)の脱中央集権化→非同期化



- 同期を取る=タイミングを合わせるにはエネルギーが必要
- エネルギー消費の抑制→できるだけ同期を取らないこと
- 事象の伝搬速度は有限なので広域の同期はそもそも無理
- 同期がなぜ必要か?→複数系の整合性と一貫性の保証
- 同期のみに頼るシステムはマルチコア前提では組めない
- ∴分散系のセキュリティは必然的に非同期を目指すしかない